

今週の富大生

# Weekly TOMIDASEI

第23号

理工学研究科 理工学専攻  
都市・交通デザイン学プログラム  
設計マネジメント研究室  
修士2年  
新潟明訓高等学校  
(新潟県)



初めての「プロジェクトのリーダー」

思い入れある作品で、最優秀賞を受賞

## 広く建築を学びたいという思いで 都市デザイン学部へ

当初は地元の国立大学を目指して勉強していました。センター試験で思ったより点数が取れず、国公立で建築が学べる大学を探しました。

富山大学では、都市デザイン学部の都市・交通デザイン学科と芸術文化学部の中の学部で、建築士の資格が取れました(平成31年度入学当時)。建築だけでなく、まちづくりや景観についても学びたいということ、都市デザイン学部は当時できて2年目の新しい学部で、先生方も熱量をもって指導してくれそうだなと考え、都市・交通デザイン学科を受験しました。前期日程で無事に合格、入学を決めました。

## 建築士資格のため、キャンパス間の移動

今は、都市・交通デザイン学科で建築士の資格は取れないのですが、当時は建築士の資格取得ができました。しかし、芸術文化学部のある高岡キャンパスの講義も受けなくてはなりません。キャンパス間の移動で苦労しました。

それでも、広い視野での建築を学べたことは良かったです。地元には他の建築系の大学に進んだ友人もいますが、話をしているとまちづくりを学びつつ建築を学べたのは自分だけなので、都市・交通デザイン学科で良かったなと実感しています。

## 都市デザイン学部の個性に触れる

「地域デザインPBL」という講義では、都市デザイン学部の3学科の学生でチームを作り課題解決をしていきます。

学科によって学ぶ学問が異なるので、当然考え方の違いがあり、面白かったです。

例えば、「立山が噴火した時のシェルターを作ろう」というテーマが僕たちの班に与えられました。地球システム科学科は地質的な観点から、材料デザイン工学科は素材という観点から、都市・交通デザイン学科はデザインの観点からという風に、学部の中でもそれぞれの強みを活かしてまとめていくのは困難もありましたが、大きな学びになりました。

## アウトプットにチャレンジできる研究室へ

研究室選びの際、設計マネジメント研究室では、プロジェクトとして街づくりの提案動画を作ると聞きました。デザインしてアウトプットすることに挑戦してみたいと思い、この研究室を選択しました。

映像制作は、テーマ設定、現場の視察、図面の作成、3Dに立ち上げて撮影、編集と多くの工程を踏みます。一つの動画にかかる製作期間は約2か月です。

## 全映協2024で学生部門グランプリに

毎年「全映協グランプリ」(一般社団法人全国地域映像団体協議会が主催)というコンテストに出場しました。チームを作り、どんな映像を作るか検討し、「【勝手に提案】富山のための都市デザイン 富山駅前広場・神通グリーンベルト」というテーマの動画を制作しました。今回、学生部門最優秀賞(文部科学省大臣賞)を受賞することができました。初めてリーダーとしてプロジェクトを管理する経験をさせてもらいました。

不安も多かった中で受賞できたことは、報われたような気持ちになりました。自分に自信を持たせてくれた、特別な作品となりました。

## 建築で地元のまちづくりに貢献

一級建築士の試験に合格しています。社会人になって実務を経験して、登録申請を行う予定です。研究科を修了したら、地元新潟のゼネコンで勤務予定です。富山大学で学んだまちづくりの観点から、地元へ貢献していきたいです。



伊藤さんがプロジェクトリーダーを務めた「【勝手に提案】富山のための都市デザイン\_04\_富山駅前トランジットモール」の動画はこちら